

きょう生まれた赤ちゃんが、10年先、20年先で見る熊本の姿。どんな魅力的な変化をとげているでしょうか。



用語解説

1. 明日に挑む農林水産基地

- ①受精卵移植による優良牛の増殖
牛は毎年1頭しか仔牛を生まない。良質の肉牛や乳牛をふやすため、雌牛の体内で受精させた受精卵を他の雌牛に移植する方法。
- ②水気耕栽培
土を使わずに作物を育てる方法の一つで、肥料を容かした培養液を使う栽培方法。
- ③栽培漁業
広い海域を畑とし、そこへ種苗をまいて成長させ、成魚にして漁獲するという漁業。

2. 活カに満ちた商工業拠点

- ①コミュニティマート、ショッピングモール
モールとは、歩行者専用デザインされた繁華街の遊歩道。ベンチ、花壇、照明などを備える。商店街に造られたものを特に買物公園(ショッピング・モール)といい、国などが、このような考え方をとり入れて、商店街の近代化を進めようとする計画がコミュニティマート構想である。

3. 世界に開く技術、情報都市

- ①テクノマート構想
企業のノウハウ情報など付加価値の高い情報を取引する市場を設置し、将来は全国スケールのネットワークで流通させようとする構想。
- ②バイオの森
化血研や農業試験場等、バイオテクノロジーに関係の深い研究所や薬品工場、実験農園等が集まった森をつくらうとする計画
- ③ソフトの森
ソフトウェアハウス、研究所、図書館、シンクタンク、計算センター、データバンク、デザインセンター等を緑豊かな森の中に集めようという計画。
- ④熊本情報案内システム(KINGS)
ビデオテックス(文字図形情報通信システム)を使った熊本独自の情報案内システム。将来、キャプテンシステムとの接続により、全国へ熊本の産業、観光など各種情報を送ることが可能。
- ⑤テレトピア構想
ニューメディア・コミュニティ構想
ケーブルテレビ、文字多重放送、INS(高度情報通信システム)など新しい伝達手段を使って、知りたいことを手軽に安く調べる事ができるしくみをつくること。人と人が直接会わずに正確に情報を伝えることができるようになることを目指す。それぞれ通産省、郵政省が提唱しているまちづくりのアイデア。

産業・流通
社会、生活。すべてにわたって、確実に変革の波は、押しよせています。それを、的確につかみ、一歩先、二歩先を行く努力が必要な今です。県では、この度、県民あげて何をなすべきかを考え、実行するよりどころとして、「熊本・明日へのシナリオ」をまとめました。

このシナリオでは、本県の将来の発展を図るために、「活カ」、「個性」、「潤い」を基調とした七つのくまもと像を掲げ、「強い熊本づくり」を展開することとしています。

県民の皆さんに理解していただき、強い熊本づくりを共に進めるため、このくまもと像の概要を紹介いたします。

(企画課)

国産材時代を実現する林業 次第に成熟しつつある森林の健全な育成管理を行い、積極的に木材の需要開拓を行うことにより、国産材時代を実現する林業づくりを目指します。

このため、林内道路網の密度をこれまでの二倍程度に高め、林業の機械化を図り、生産性の向上に努めます。また、集材材などへの間伐材の利用や消費者に好まれる新製品開発にも力を入れます。

新時代の栽培漁業 全国のモデルとなるような栽培漁業の確立を目指します。

このため、浅海干潟地域では、アサリなどの全国一の生産性を確立します。漁船漁業地域では、大魚礁群の造成を進めるとともに先端技術の開発導入を図りながら、広域的資源管理を行います。養殖業では、漁場の開発などを進めるほか、あわび、とらふぐなど新魚種の養殖を進めます。

市場動向に敏感に対応できるような流通システムを確立するとともに、予冷施設の設置など大消費地へ安定的に供給する体制を整備し、情報化時代にふさわしい流通体制を整備します。

ベンチャー企業の宝庫 新分野に積極的に取り組む地元企業の他県に類を見ないベンチャー精神を先進企業との連携のなかでダイナミックに展開させ、活力ある産業拠点の形成を目指します。

このため、地元企業育成に関しては県工業試験場の整備など技術開発や技術指導体制の拡充強化、企業間の技術交流促進などを機動的に行います。

地元企業に新しい刺激をもたらす先進企業の進出は、最近増加傾向にあります。今後も、豊富なハイテク人材、整備された生活環境とをセールスポイントに多面的PR活動を展開するとともに、内陸工業団地の造成などの受け入れ体制を整備し、進出を促します。

ファッションオナフルタウン その街で散歩し、ショッピングし、憩うことがファッションオナフルであるような魅力ある商店街づくりを目指します。

このため、コミュニティマート、ショッピングモールなどの構想を積極的に導入し、都市計画などのまちづくり計画と一体となったモデル商店街づくりを進めます。

交流拠点 本県を広く人、物、情報の活発な交流拠点とすることを目指し、流通業務団地をはじめとする流通の拠点づくりについて、ハード、



水気耕栽培によるトマトの栽培



輸送団地(益城町)

ソフト両面にわたり関連の施策を進めるとともに、Uターン・アドバイザリー制度などにより、高度技術者に對する需要増にこたえます。



電応研完成予想図

熊本を国際的に開かれた技術・情報都市としていきます。

テクノポリス これからの技術革新の時代に、地元企業が伸びていくためには、何よりもまず、技術開発力の充実強化が必要です。このため、地元産・学・公の力を合わせて熊本テクノポリス財団を設立しましたが、財団では、地元企業と国内外の先端技術とを結ぶ窓口となることを目指して、電子応用機械技術研究所を設置し、技術開発や県内企業に対する技術支援事業などを行うほか、テクノマート構想にも取り組み、全国的、世界的なスケールで技術情報のネットワーク化を進めます。

財団が昭和六十年を目標に建設し、

① 明日に挑む
農林水産基地

熊本を将来の可能性に果敢に挑戦する農林水産業の基地にします。

高生産性農業 国内外の産地と競争できる足腰の強い農業の実現を目指します。

十年後の自立経営農家の農業所得を二倍程度にまで高めることを目標として、経営規模の拡大、中山間地帯を含めた農地の基盤整備に取り組みます。

② 活カに満ちた
商工業拠点

熊本を活カに満ちた商工業の拠点とします。

③ 世界に開く
技術・情報都市

熊本を国際的に開かれた技術・情報都市としていきます。